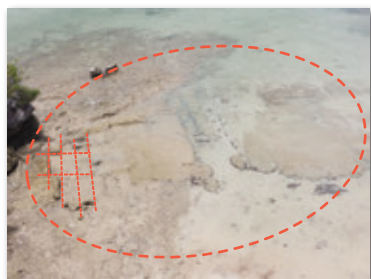


石壁などに使われたビーチロック

宮古では現在、島尻の東海岸と大浦の北海岸で石切場が確認されています。石切場とは採石場のことで、島尻と大浦の石切場は海岸部のビーチロックを切り出しています。切り出された石材は建築材料などに使用されました。いまはコンクリートブロックなどに代わり、ほとんど残っていません。



島尻の東海岸（上空より）



大浦の北海岸（上空より）



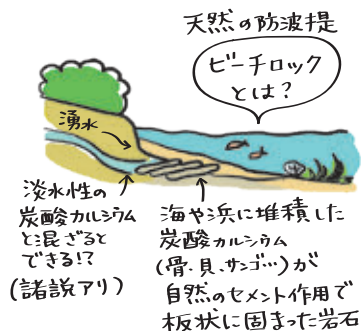
切り出し途中のビーチロック



石壁などに利用された

ビーチロック

砂の中で、炭酸カルシウムのセメント作用によって固まった海浜砂岩をビーチロックといいます。沖縄の海岸でよく見られ、軟質で割り取りやすいため、石材としてよく使用されました。



まだまだある！魚垣

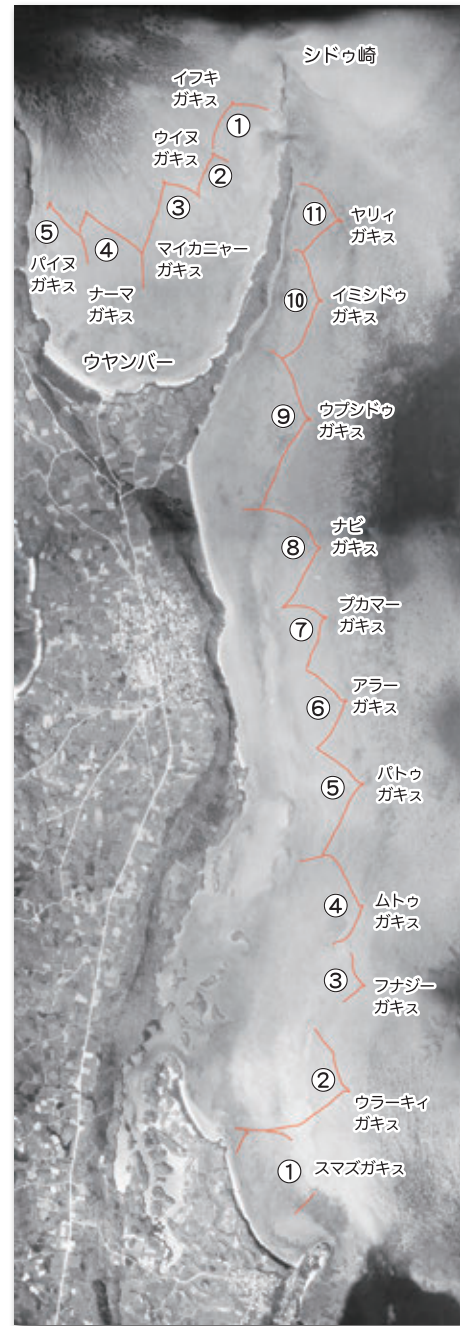
遠浅の海に積み上げられた石垣を「魚垣」といい、魚垣は潮の満ち引きを利用して魚を捕る伝統漁法です。

沖縄方言では、カチ、カキィ、ハシィ、クミなどと呼ばれ、狩俣では「カキス」と呼ばれます。

1960年代は西平安名崎から島尻港周辺までの広い範囲にかけて、16もの巨大な魚垣が形成されていました。

新たな漁法の普及によって次第になくなりましたが、いまでも一部にその名残を見ることができます。

宮古では、伊良部島の魚垣が市の有形民俗文化財として指定されており、間近で観察することができます。



1963年の航空写真から魚垣と思われる形跡をなぞったもの（写真：国土地理院）

西辺コース

散策コース

所要時間：車と徒歩で
約1時間（約14km）

真佐久（与那覇勢頭）が
沖縄島に行く時
無事を祈った

『与那覇勢頭豊見親
沖縄島発見出発の地』碑

バナタガー嶺の海軍砲台・トーチカ
（戦争遺跡編 P28）

広瀬尾神崎

白川田水源地・貯水池

福山

棚橋と山川の
2つの集落の名を
とり「福山」

大野越排水溝 P63

大野越開拓記念塔

大野山林 P64

宮古島市熱帯植物園 P64

宮古島市総合博物館 P65

宮古空港

真謝漁港

ウイバラガー

大浦多志城跡 P57

このあたりは
水田だった

農村センター

ウイヌヤマ

イザガー

公民館

ウーイヌ御嶽

スタヌ御嶽

唐井

フズ嶺

ジャーガマ P60

イーガマ P58

ヒダガー

大主御嶽 P59

成川井

成川

クウラ P62

南小浦

北小浦

大崎

ウス

ワー

池間島から

大浦湾（ウブラ）

石切場 P52

イイヌカー

屋敷原

沖縄県立
宮古特別支援学校

野田山林

野田山林

START

ヌストウヌガマ

国立療養所
宮古南静園 P51

島尻

池間島

※御嶽に許可なく入ることは禁られています。

サンシンバナリ

西辺

おお 浦・ふくやま にしはら ち いき あた にし べ
大浦・福山・西原地域の辺りを、「西辺」
とも呼びます。これは、この3地域の学区
名(通学区)を指した呼び名です。

宮古の方言で北をニスといい、この地域
が宮古島の北方に位置することから北辺
と呼ばれ、いつしかニスに「西」の漢字があ
てられ、西辺と呼ばれるようになったとい
われています。

大浦地域

大浦集落は現在より西寄りの海岸近
く、ヤスキと呼ばれる地にありましたが、
戦に巻き込まれて廃村になったと伝えら
れています。いつ頃から人が住み始めた
かは分かっておらず、村立てと廃村を繰
り返し、現在の集落ができました。

『宮古島庶民史』(1957)には、「廃村の
のち、1714(康熙53)年に大浦村が立て
られた」と記されています。

その後、近隣集落から住人を寄せ、徐々
に栄えていきました。

西原地域

1874(明治7)年、池間島の人口増加の
ため、琉球王府による強制移住計画のも
と、池間島の分村として西原村が誕生し
ました。分村なので「池枝村」としていま



したが、当時の御検使富川親方に随行し
た西原親雲上が、自分の名を記念に使っ
て欲しいと願い出て、「西原村」と命名さ
れました。西原は池間の風習を色濃く残
し、数多くの祭祀を行っています。

福山地域

1937(昭和12)年頃、土地改良事業に
ともない、棚福・山川・ピンフ・佐事・トゥ
シガーの5つの小集落が集まって福山集
落が誕生、1964(昭和39)年に旧大野越
集落が新たに加わりました。集落は標高
95mのピンフ嶺の麓に広がり、伊良部島
まで見渡すことができます。
施設園芸などの農業の盛んな集落とし
て発展しました。

大浦多志と大浦集落

大浦集落には、大浦多志と呼ば
れる唐人の伝説が伝えられます。

『雍正旧記(1727)』に記録され
る古謡の『唐人渡来のあやぐ』に
よると、中国から渡ってきて城を
築いたことや、嘉手苅村のたまね
くろを妻にして、村の主長となっ
たことなどが記されています。

また、集落には大浦多志が住ん
でいたとされる城跡や、大浦多志
が祀られている御嶽などが存在し
ます。

しかし、大浦多志の子孫が何代
続いたのか、誰に滅ぼされたのか
などは、分かっていません。

大浦多志関連の史跡・御嶽



いじゅう き て 移住の決め手になったイーガマとヒダガー



にしはらさんさく
西原散策マップ『んすむら』(2018)より

いけ ま にし はら
池間から西原へ移住し
てきた際に上陸した場所
が、イーガマという入り
江でした。すぐ側に豊かな湧泉、ヒダガーがあったことが西原移住の決め手となりました。

イーガマでは旧暦6月にニガイが行われます。龍宮の神に豚を捧げると、それを受け取るために龍宮から使いの白い船がやってくるといわれています。

はい しょ
拝所

うはるす う たき いー ぬ う たき

大主御嶽(西の御嶽)



にし はら めい じ いけ ま にし はら むら
西原の大主御嶽は、1874(明治7)年に池間から西原村として分村したことによって、池間と同じ御嶽が建てられました。祭神は「うらせりくためなうの真主」が分祀されています。集落の中で一番格式が高いとされ、数多くある年間祭祀のほとんどがこの御嶽を中心に行われます。

集落にとって大事な御嶽であり、むやみに立ち入ることは禁じられています。



にし はら
西原のマークツツ

にし はら きゅうれき
西原のマークツツは、旧暦8〜9
月の甲午から4日間にわたり行われま
す。ナナムイヌウヤと呼ばれる50〜
56歳の男性が中心となる祭祀です。

2日目にはマスムイのあと、「五穀

ほうじょう はたがしら かか なか ま
豊穰」の旗頭を掲げ、ナイカニ(仲間)
う たき ひろ ば
御嶽からジャーガマと呼ばれる広場ま
で、ウヤたちが威勢の良い掛け声でク
イチャーをおど せい よ か こえ
イチャーを踊りながら練り歩き、子孫
むら はん えい き がん
や村の繁栄を祈願します。



にし はら
西原のユークイ

にし はら きゅうれき
西原のユークイは旧暦9月に3日
間にわたり行われます。ナナムイヌ
ンマと呼ばれる47〜56歳までの女性
がユークイに参加します。

ナナムイヌンマたちは大主御嶽に
籠もり、一睡もせず祈り続けます。

よ あ しろ かみ いしろう き
夜が明けると、白い神衣装を着て
草冠をかぶり、手草を持って集落内
の9つの御嶽を巡拝します。御嶽で
は世(豊穰)を招き入れる所作を伴う
ゆー ほうじょう まね い しよ さ とまな
世乞いの歌などをうたい、豊年と健
康を祈願します。



おおうらわん たいひ となり ちい くうら
大浦湾に対比するように、隣に小さな小浦と
わん には すくうら ばい くうら
いう湾があります。小浦には北小浦、南小浦と
いうふたつの浜があり、南小浦と大崎のバンク
やまう たき あいだ おおの さんりん ゆうすい なが
山御嶽の間を、大野山林からの湧水が流れ
で
出ています。

ここに生息する生き物を狙って、
おお みずどり あつ
多くの水鳥が集まっています。

ウミガメ産卵地



おお の ごし はい すい こう

大野越排水溝（トンネル）



おお の ごしはい すいこう おおの さんりん い ち しょうわ けんせつ
大野越排水溝は大野山林に位置し、1934(昭和9)年に建設
された鉄筋コンクリート造りの隧道です。延長640mで欠円
てっきん づく すいどう えんちよう けつ えん
アーチ形をしており、東坑口は石造アーチ風にデザインされて
がた ひがしこうぐち せき ぞう ふう
います。この地域一帯は低湿地で水はけが悪く、マラリアを媒
ち いき いたい ていしっ ち みず わる
介する蚊が多く発生する土地でした。
かい か おお はっせい と ち
そこで「大野山耕地整理計画」が策定
おおの やま こうち せいり けい かく さく てい
され、開墾基盤の施設として大野越排
かい こん き ばん し せつ
水溝のトンネルが建設されました。
けん せつ





憩いの場だけじゃない 大野山林

大野山林

大野山林は、森林率が約16%と低い宮古島にとって重要な森で、210ヘクタールの広さがあります。

この山林は1655(順治12)年、当時の官職にあった下地親雲上恵根によって松の植林が始められました。この頃、島内は建築や船舶用の木材資源が少なく、石がききま、ちやうたつ垣島から移送していたため、島内で調達できるようにするのが目的でした。

戦前、戦後を通して貴重な森林資源として活用されました。

また、この山林は白川田水源と山川水源の上にあり、水源かん養、防風、防潮などの保安林として指定されています。

現在は野鳥の繁殖地や市民の貴重な憩いの場になっています。

宮古島市熱帯植物園

植物園は、1964(昭和39)年に着工され、本州、ハワイ、台湾、東南アジアの各植物園と提携して数多くの樹苗を導入し、また沖縄の各島々に原生する植物を集めて植栽しました。

23.8ヘクタールの園内には、ここでしか見られない樹木が育ち、様々な生き物が生息しています。

1世元の人はい「ウツヤマ」と呼ぶ

昔は大野山林はタブノキの森だった

沖縄県は47%
(2017年 林野庁)

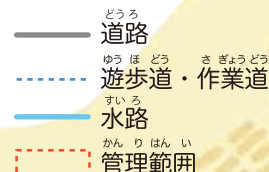
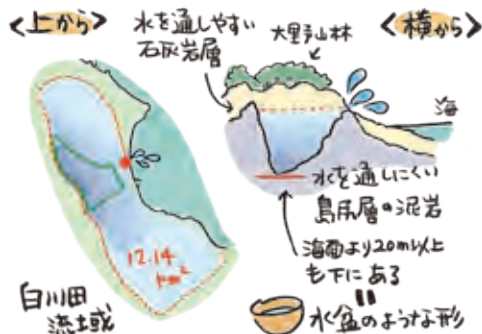
1ヘクタール
100m x 100m
1町(ちやう)



大野山林の下は宮古の大事な飲料水が貯まっている

大野山林一帯の地下は、水を通じにくい島尻層の泥岩が、水盆のような形になっており、貯まった雨水が白川田から湧き出ています。

白川田水源の流域面積は12.14km²あり、約700万トンもの地下水を貯めることができ、宮古島市民約5万人の飲料水をほぼまかっています。



1961年に大神島、多良間島、水納島などから40戸が入植。「大野越」と呼ばれていたが、同名の集落があったので「高野」に改称。

総合博物館は、1979(昭和54)年の「平良市歴史民俗資料館」から始まり、2005(平成17)年の市町村合併にともない、現在の名に改称されました。

文化財の体系図

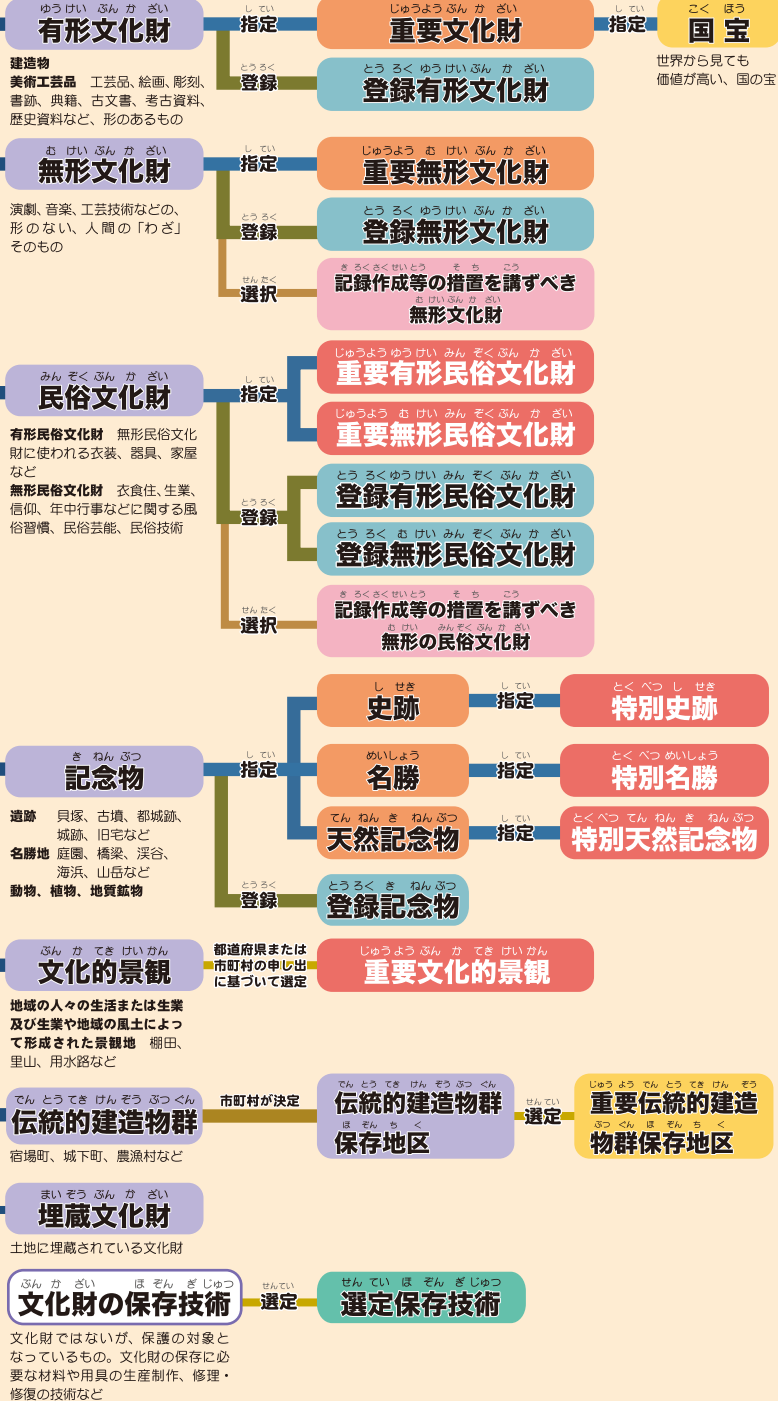
文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

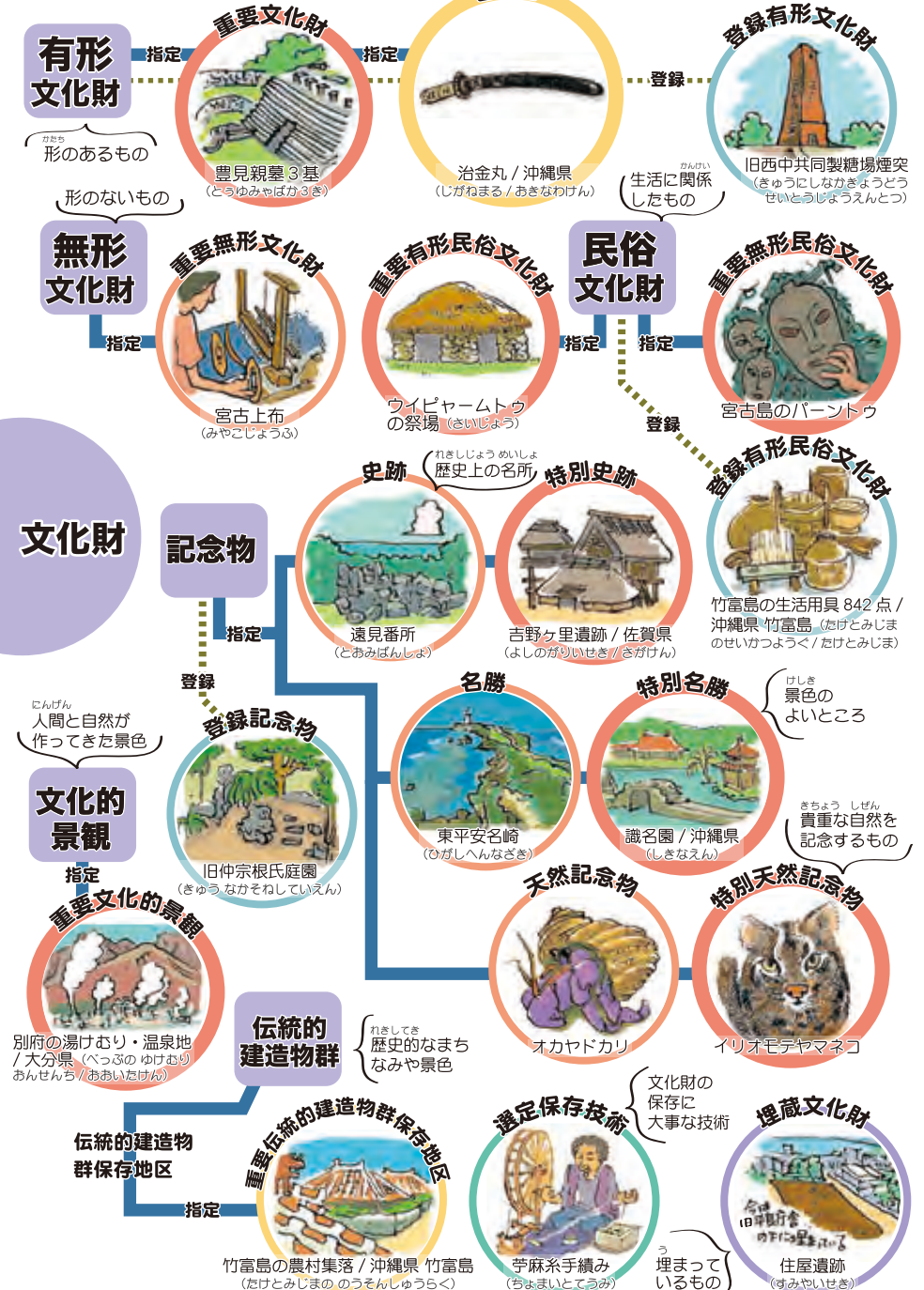
重要なもの

文化財



それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例



わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です

たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



この冊子は非売品です (NOT FOR SALE)

宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(四島・西辺コース)**

発行 初版 2021(令和3)年 3月

改訂 2025(令和7)年10月

編集・発行 宮古島市教育委員会

〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地

TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光